

人文書・歴史書 ご担当者 様

有志舎の新刊です。2024年7月下旬刊行

新シリーズ「問いつづける民衆史」(全11巻) 第一回配本

朝鮮植民地戦争

—甲午農民戦争から関東大震災まで—

慎蒼宇 著

四六判・ハードカバー・430ページ 本体価格 3,600円

新シリーズ「問いつづける民衆史」刊行開始!

朝鮮植民地戦争の現場を生きた民衆にとっては、「戦時」と「平時」は未分離であった。

日本における排外主義の原点を問う。

【目次】

- 序章 朝鮮植民地戦争とは何か
第一章 朝鮮王朝時代における民衆反乱の鎮圧と刑罰——「賊徒」と「良民」をめぐる
第二章 朝鮮植民地戦争の時代
第三章 蓄積された植民地戦争経験①——その理論と手法
第四章 蓄積された植民地戦争経験②——日本軍隊の植民地戦争経験
第五章 義兵と朝鮮社会
第六章 「不穏」から「騒擾」への予兆——武断政治期後半における兵站保護と朝鮮民衆
第七章 関東大震災時の朝鮮人虐殺——発揮された植民地戦争経験
終章 終わらない朝鮮植民地戦争

〈著者紹介〉慎蒼宇(しん ちゃんう): 法政大学社会学部教授(朝鮮近代史)

～版元から～ 朝鮮のんびとは甲午農民戦争以降、50年以上にわたって日本の侵略と植民地戦争にさらされ続けました。それは彼我の力が圧倒的に違う「非対称戦争」であるがゆえに凄惨なジェノサイドを伴い、その延長線上に関東大震災時の朝鮮人虐殺は起こりました。平時のない植民地戦争のなかで虐殺体験や朝鮮民衆への憎悪・恐怖を内面化した日本軍人・兵士たちと、その暴力にさらされながらも抵抗し続けた朝鮮民衆の姿を通して、日本近代史に圧倒的に不在だった植民地戦争の実態を描き出します。

18世紀以降の世界史を「民衆」に焦点を合わせて描き直す新シリーズの第一弾です。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行: 有志舎	分野
	冊	〈問いつづける民衆史 1〉 朝鮮植民地戦争 —甲午農民戦争から関東大震災まで— 慎蒼宇 著	朝鮮史・日本史 (近現代)
	ご担当	四六判・ハードカバー、430ページ 本体価格 3,600円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN978-4-908672-76-7 C1022	

ご注文は 有志舎 担当: 永滝(ナガタキ)まで FAX: 03-5929-7352

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・楽天BNほか、いずれの取次でも左記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この注文書だけを弊社にご返信ください。